

移設立案に全力

平城宮跡近鉄線で知事

委員 質疑
会 質
県 総括

県議会の決算審査特別委員会(神田加津代委員長)が18日開かれ、総括質疑で荒井正吾知事が答弁に立った。荒

井知事は「国営公園化」をにらみ、県が検討を進める奈良市の平城宮跡の近鉄線移設問題などについて、「地下の

木簡など文化遺産の保存と、景観問題など近鉄線の移設問題は手法を含め極めて難問だが、まずは案が固まらないと動かない。移設に関して立案に全力で取り組む」と述べた。

荻田義雄委員(自民党改革)の質問に答えた。荒井知事は「国営公園化を進める上で、(横断する)近鉄線はふさわしくない施設」とした上で、木簡など地下の文化財保護や景観の問題など「地下、高架いずれも問題があり、そうなる水平移設だが、近鉄西大寺駅の問題を含め、まずは推奨できる案を取りま

とめたい」と述べた。

山本進章委員(自民党未来)が県立耳成高校跡地利用で、あらためて旧校舎の利用を質問したのに対し、荒井知事は「耐震性のある施設であり、(県の)南部振興のための施設を移す事を検討している」と述べた。

また関西6府県で唯一、奈良が参加を拒否している関西広域連合の問題で、荒井知事は「屋上屋を架すことになる」と自説を繰り返したのに対し、荻田委員は「広域連合に参加しないことに不安を持つ県民もいる。市町村に対しても、もっと思いを伝えるべきでないか」と丁寧な対応を求めた。

山本幸穂委員(共産党)が併せて道州制の

問題を取り上げたのに対し、荒井知事は「広域連合よりもっと大きな形であり、道州制が

必要かどうかという議論だけでなく、国、基礎自治体、そして県のような中間自治体の役割など、それぞれ精査する必要がある。組織を新しくすると、何か地域が良くなると思われがちだが、実際にそんな例はなく、組織については慎重にいろんな角度で吟味すべきだ」と、重ねて慎重な姿勢を示した。